

令和3年2月25日

厚生労働省
医政局看護課長 様

一般社団法人全国保健師教育機関協議会
会長 岸 恵美子



第107回保健師国家試験の出題内容に係る要望書

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃から、保健師教育にご配慮いただき、厚くお礼申し上げます。

また、全国保健師教育機関協議会の活動の特段のご理解ご協力を賜り、感謝しております。

さて、2月12日に行われました第107回保健師国家試験について、当協議会会員校から寄せられた意見を集約し検討した結果、別紙のとおり、資料1と資料2と合わせて、要望としてお届けいたします。

是非、ご検討いただけますよう、お願い申し上げます。

別紙 1

I 不適切問題

問題番号	理由	コメント
午前：6	正答が複数ある	<p>正答が2つある。選択肢1、4が正答である。</p> <p><理由>グループの発展段階には複数のモデルがあり「開始期」がない教科書もあるが、同様の時期と考えられる時期に選択肢1と選択肢4が含まれているため、いずれも正答である。</p> <p>出典：日本看護協会出版会.保健師業務要覧第3版 p.136・3~4行目、同.第4版 p.222、インターメディカル.公衆衛生看護学.jp. 第4版 p.154・2行目、中央法規.公衆衛生看護学第2版 p.112表 2-2-E-2。</p>
午前：12	正答が複数ある	<p>正答が2つある。選択肢2、3が正答である。</p> <p><理由>選択肢2は複数教科書に記載があり正答。選択肢3は災害発生時に避難行動要支援者及び避難行動等関係者の犠牲を抑えるために作成するものであり（災害対策基本法第49条10から13）健康危機の未然防止であるため正答である。</p>
午前：38	正答が複数ある	<p>正答は4つある。選択肢1、2、3、4が正答である。</p> <p><理由>選択肢2と3は事例への支援に限った内容であり、事例管理は選択肢1も4も該当し正答である。</p> <p>出典：保健師業務要覧第4版 p.99、中央法規公衆衛生看護学 p.499、医歯薬出版公衆衛生看護技術 p.271。</p>
午後：13	正答が複数ある	<p>正答が3つある。選択肢1、2、3が正答である。</p> <p><理由>選択肢1はDV防止法第6条第2項により適切である。選択肢2の民生委員は児童福祉法による児童委員を兼ねており、児童虐待の通告、子ども家庭の状況把握は任務であるため該当しうる。選択肢3は親へのDVを見る児は被虐待児となり心理発達状況を確認することは適切である。</p>
午後：15	正答がない	<p>統括安全衛生管理者という職はない。統括安全衛生責任者は建設業・造船業だけに置かれる職である。よって、正答がない（「総括安全衛生管理者」との誤植と考えられる）。</p>
午後：34	正答が複数ある	<p>正答は3つある。選択肢1、2、3が正答である。</p> <p><理由>選択肢1は正答である（国民衛生の動向2019/2020,p.438,表30）。選択肢2は正答である（国民衛生の動向2019/2020,p.127,表22）。選択肢3は平均在院日数については「病院報告」と「患者調査」がある。平成</p>

		29年病院報告では267.7日（国民衛生の動向2019/2020,p224,表34）、平成29年患者調査では、精神および行動の障害の患者の平均在院日数は277.1日であるが、精神病床における平均在院日数は330.3日（表49・国民衛生の動向2019/2020p.89 図11）であり選択肢3は正答である。
午後：42	正答が1つである	択2問題であるが正答は1つである。選択肢3だけ正答である。 <理由> 選択肢1は現在の児の状況で適応する日常生活用具が考えられないため誤答。選択肢2は養育支援訪問事業対象者に該当しないため誤答。選択肢3は正答。選択肢4は保育所に入所していないため誤答。選択肢5は一人親家庭でなく該当しないため誤答。
午後：50	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢1と2が正答である。 <理由> 選択肢1の長女は入院中の面会頻度は状況に記載があるが入院前の接触頻度の記載はない。Aさんの近所に住んでいることから、入院前の咳があった時期から接触頻度は高かったと推測される。選択肢2のB病院の同室者はC病院に転院するまでの2週間の接触であり接触者健診をしても結果が判断できない時期である。そのため、長女が優先順位は高いと判断できる。 しかし、「感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き」改訂第5版では「低感染性」の優先順位を判断するフロー図では、2者とも「その他の濃厚接触者」に分類される「優先接触者」に該当すると考えられる。したがって、2つの選択肢の優先度は判断し難く、正答が2つあると考えられる。 資料：「感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き」改訂第5版
午後：54・55	状況設定、選択肢が不適切	状況設定に国家試験問題として配慮にかける内容が散見するため、不適切問題として扱っていただきたい。 <理由> ① 「養父」を設定していることへの疑義：実親以外が虐待者となる場合もあるが、養父とする必要性に疑問がある。養父を事例とする場合、養子縁組による親権の有無の確認が虐待の対応には必要であることや、ステップファミリーが多い近年において養父への偏見が生じる懸念がある。

	<p>② 学校での対応への疑義：学級担任や複数の教員はA君の怪我に気づきながら虐待のリスクを念頭に置いていないと思われる状況となっている。養護教諭がA君に声をかけたのはA君が掃除当番という偶然の場面設定になっている。怪我に気づいた複数の教員から、養護教諭への相談や、校内での検討の提案がみられない。</p> <p>③ 当日の対応への疑義：問題 55 では、校内委員会で児童相談所に通告することとなったが、この日のうちに通告したのか。この日に帰宅させたのは、学校の判断か児童相談所の判断か。母親にあざについて受診を勧める電話をしたことにより翌日養父から学校に電話があったことから、電話により虐待のリスクが高まっている状況がうかがえる。親からの暴力による怪我であるにも関わらず帰宅させたことに疑問がある。</p> <p>以上より、この問題が過去問題として学習に使われることは不適切であり、学校・児童相談所関係者に対しても失礼な内容であるため、不適切問題として扱っていただきたい。また、問 54 の選択肢 2 も不適切と考える。</p>
--	---

II その他改善を要する問題

理由	コメント
設問の改善が必要である	午前 28：臨時の職場巡視ではなく、作業を中止して救護にあたるべき状況である。
	午前 44・45：A市の地区数が記述されていないためB地区の規模が想像できない。人口 70 万人であれば保健所設置市と考えられるが、保健所と保健センターの役割分担は自治体によって異なり、難病を担当するかも違いがある。また、問 44 の「B地区を管轄する保健センター」と問 45 の「B保健センター」とが同一のものであるかが不明瞭であり、状況理解が困難な設定である。
	午後 16：看護分野では人材管理という言葉は見当たらない。各教科書では人材育成・人事管理と表記されている。「人材」人材育成、人材確保など、「管理」は人事管理、労務管理など。
	午後 45：正答は 1 を想定している問題と思われるが、個別の対応は「ストレスチェックの実施者」に選定されていなければ実施できない。状況設定文において保健師が選定されている記述がないため、詳しく学んだ学生が判断に悩む問題となっている。

<p>正答肢の選択が容易である</p>	<p>・魅惑肢がなく正答が明らかな問題：午前 41（3 歳児の発達に係る電話相談）、午前 49（難病患者の生活指導）、午後 3（結核の特異的予防）、午後 22（医療費助成の根拠法令）、午後 29（子育て世代包括支援センターの理解）、午後 38（コーチングの具体）、午後 39（介護予防の情報収集）が該当した。</p> <p>・設問と選択肢を読むと正答が選択できる問題：午前 18（KDB の対象）、午前 54（地域包括支援センターの取り組み）、午後 7（栄養教室の運営方法）、午後 47（高ストレス者への取り組み）が該当した。</p> <p>今後は作問の際のブラッシュアップを期待する。</p>
<p>状況設定文がなくとも解答できる</p>	<p>状況設定文を読まなくても、正答肢を選択でき、単問で成立すると考えられる問題：午前 43、午前 53、午後 41、午後 47、および午後 52・53 が該当し、難易度が低くなっていた。</p>

Ⅲ 全体について

1. 全体的に難易度が低い傾向にあった。

タキソノミーレベルではⅡ・Ⅲ合わせて 38.2%と昨年同様であったが、魅惑肢がなく正答肢が容易に選択できる問題、看護師基礎教育の知識のみで解答できる問題等が散見され、全体的に難易度が低下していた。特に状況設定問題の難易度は低かった。

1) タキソノミーレベル分類の結果（全体）

タキソノミーレベルを 2 群に大別した場合は、タキソノミーⅠとⅠ'の出題は 68 問（61.8%）、タキソノミーⅡとⅢの出題は 41 問（38.2%）であり、昨年の第 106 回とほぼ同率で例年と同じ傾向あった。しかし、4 つのレベル別では、タキソノミーⅠの出題が 7 問増え 61 問（55.5%）であった。昨年、第 106 回国家試験の調査結果として本協議会で提出した要望書でも、その前年の第 105 回よりタキソノミーⅠが 12 問増え 49.1%と半数近くを占めたことから難易度が低くなったことを指摘させていただいたが、今回はさらにタキソノミーⅠの出題が増加していた（別紙 1 及び別紙 2 表のとおり）。

2) 状況設定問題のタキソノミーレベル分類の結果

状況設定問題、35 問のタキソノミーレベルは、タキソノミーⅠの出題は 5 問（14.3%）、タキソノミーⅠ'は 2 問（5.7%）、タキソノミーⅡは 21 問（60.0%）、タキソノミーⅢは 7 問（20.0%）であり、Ⅱ・Ⅲが昨年よりも増加していた。

2. 図表を取り入れた問題が一定程度出題されていた。

統計グラフは 5 問出題され、疫学の間、2 問で表、合計 7 つの図表が用いられ、数値を読み解く問題が適度に出題されており、今後も継続していただきたい。

以上